

2 道の役割分担と町の性格

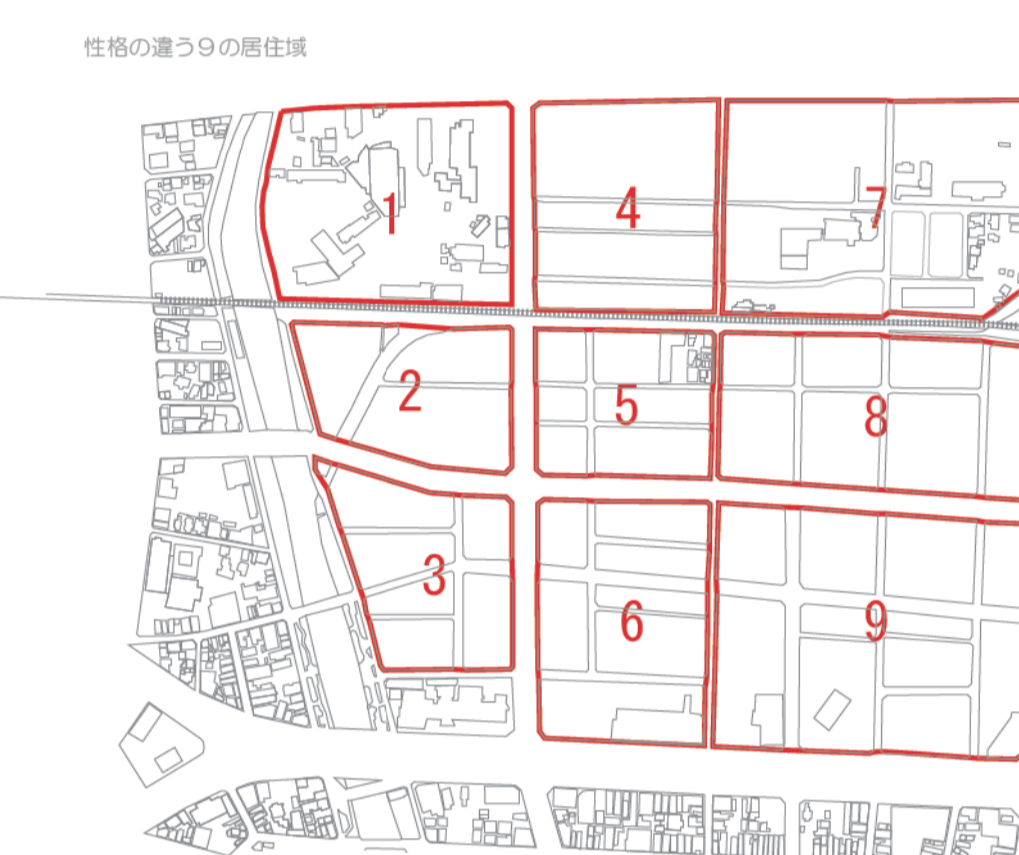
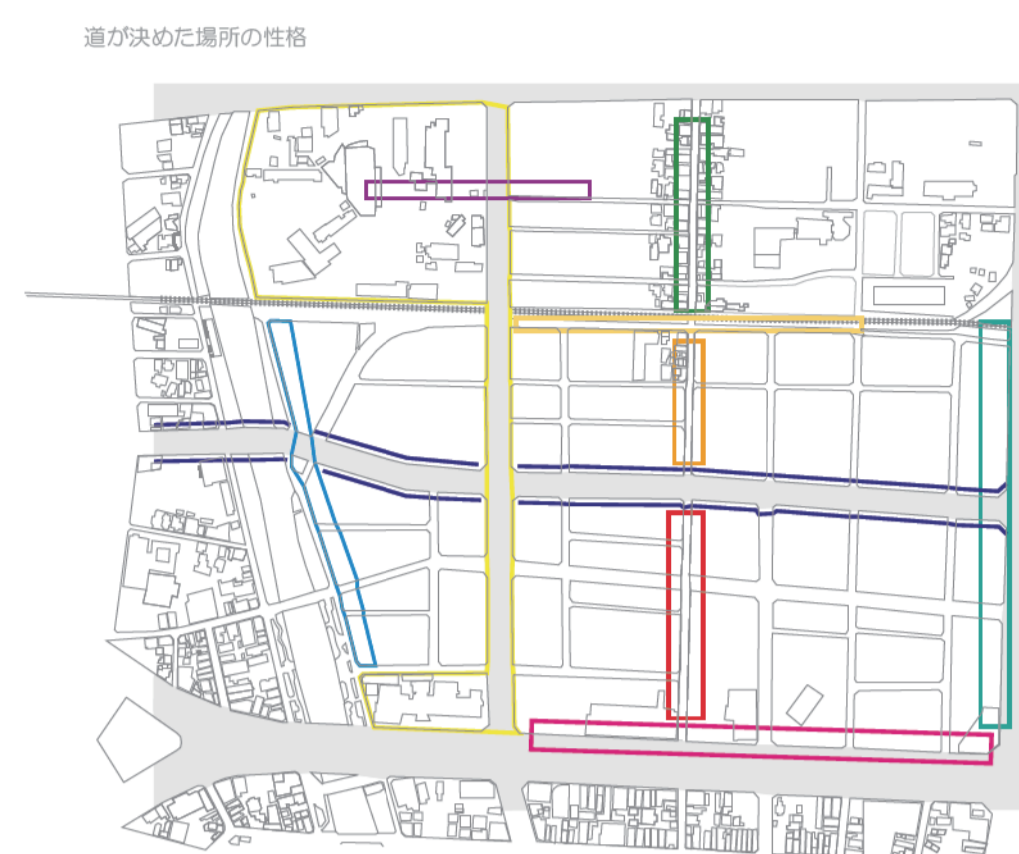
車の道・人の道・若者の道・商業の道・学びの道・宇部の道

まちを貫いている何本かの道にしっかりと役割分担をすると、まちにメリハリが生まれます。

宇部を性格づける「みち」



- エリア常盤通り
・高層
・高さを市役所、井筒屋、エムラにあわせる
- エリアオアシス
・高層
・高さを市役所、井筒屋、エムラにあわせる
- エリア学び誘致
・既存建物、プログラムを活用
・学童向けの店舗
・木末にあわせた建物の高さ
- 歩行者天国エリア
・川側ではない側は、既存公共施設以外の建物を建てない
- 騎空商店街エリア
・高層
・今までの商店街のラインナップを維持
・下駄履き
- チェーンストア誘致商店街エリア
・高層
・若者向けのチェーンストアを誘致
・セゾンドアライメント
- エリアリバーサイド
・高層
・10m程度に高さを抑える。
- ホテル通り
・交通交通車道の住宅エリア進入
・各階層のためのプログラムを着地する。
・駐車場を各ブロック用とする。
- 公園通学路エリア
・中層
・道であり公園
- 憩いの道路エリア
・低～中密度
・カーコート（アスカー）を統一
・ポケットパークを多数配置



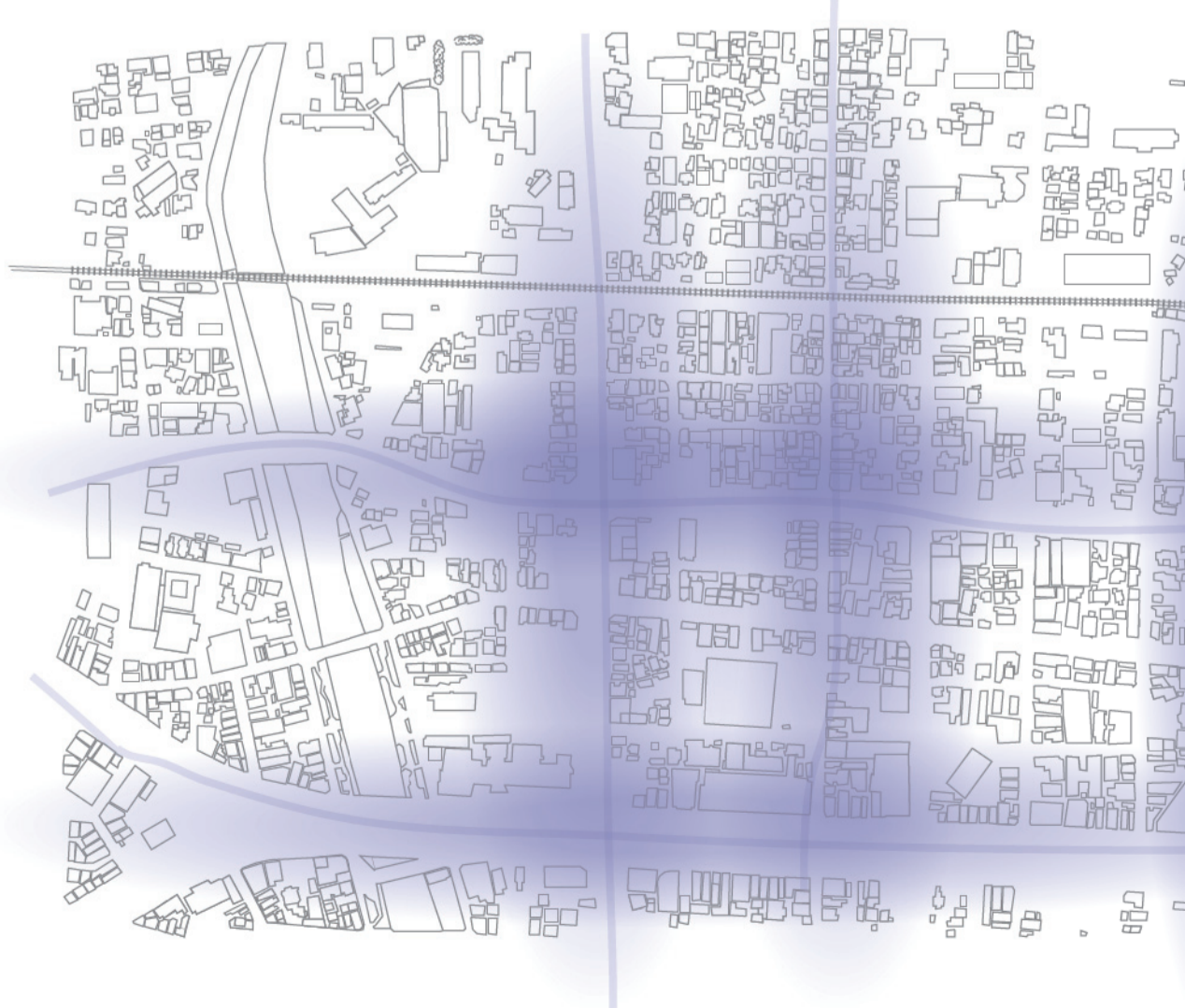
- 1 ●エリア1
・居住現況を利用
・高層マンション禁止
- 2 ●エリア2
・ファミリー層
・高層
・子育て
- 3 ●エリア3
・中高層住宅者
（単身、ファミリー）
・市役所の大駐車場は、
・街区の中心部に
- 4 ●エリア4
・子どもを持つ
・ファミリー層
・低密度
・低層
- 5 ●エリア5
・若年層、ファミリー
・高層
・街区南側、幼稚園に接する
部分が高層
・中心部は中～高層
- 6 ●エリア6
・若年層、ファミリー
・街区南側の大きな公園
・ホテル
・高層
・中層
- 7 ●エリア7
・高齢者向け
・低層
・低密度
- 8 ●エリア8
・ファミリー向け
・低層以下の高さ
・中層
・高層
- 9 ●エリア9
・ファミリー、
・単身向け
・高層

4 宇部の育ち方

新しい住宅のカタチ

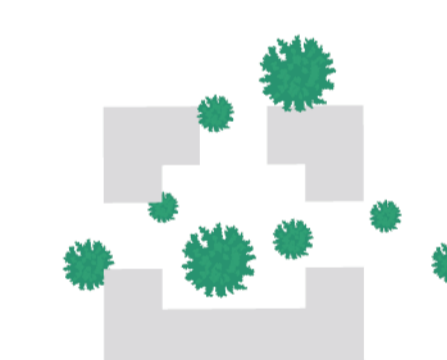


居住域にて、宇部におけるあらたな生活像を提示するために、今回中庭囲い式の集合住宅を提案する。この形式が緑のネットワークや彫刻と住民との関わり合いを密接にし、この住宅の発生をきっかけに町全体に浸透していく。



道がわの空間から徐々に居住域の内側へと進行していく

そこから始まる物語



ミドリ
緑のネットワークでまちと繋がる

抜けのあるこの形式の住宅が増えるたびに、緑のネットワークは繋がりが続ける。



カゼ
風の抜けるスローな生活

真綿川や用水路から吹く風が抜けによって街中を吹き抜ける



ヒト
住民同士のコミュニティ生成

囲まれた建物の中で静かに、そして大切に育まれる居住者同士の関係性



チョウコク
対住民型の彫刻との関わり

彫刻はその住宅や街区の象徴となる、住宅の増加とともに彫刻を住宅地街区の奥まで浸透させていく。

3 宇部らしい町づくりのために

3-1 線によってつながるまち

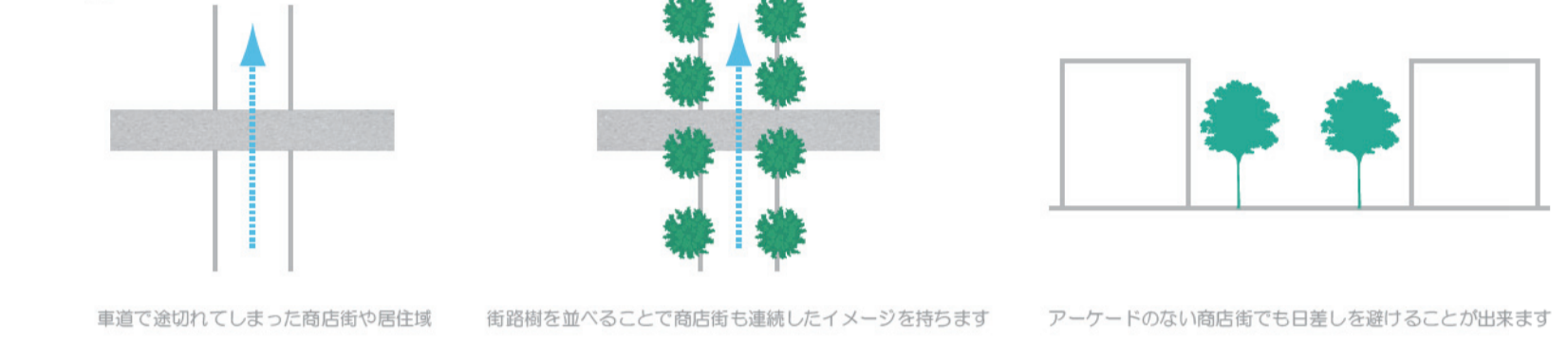
街路樹やポケットパークを用いた緑のネットワークによって歩行空間を潤すとともに、異なった居住域や性格のこなる場所をつなぐ。

緑の帯



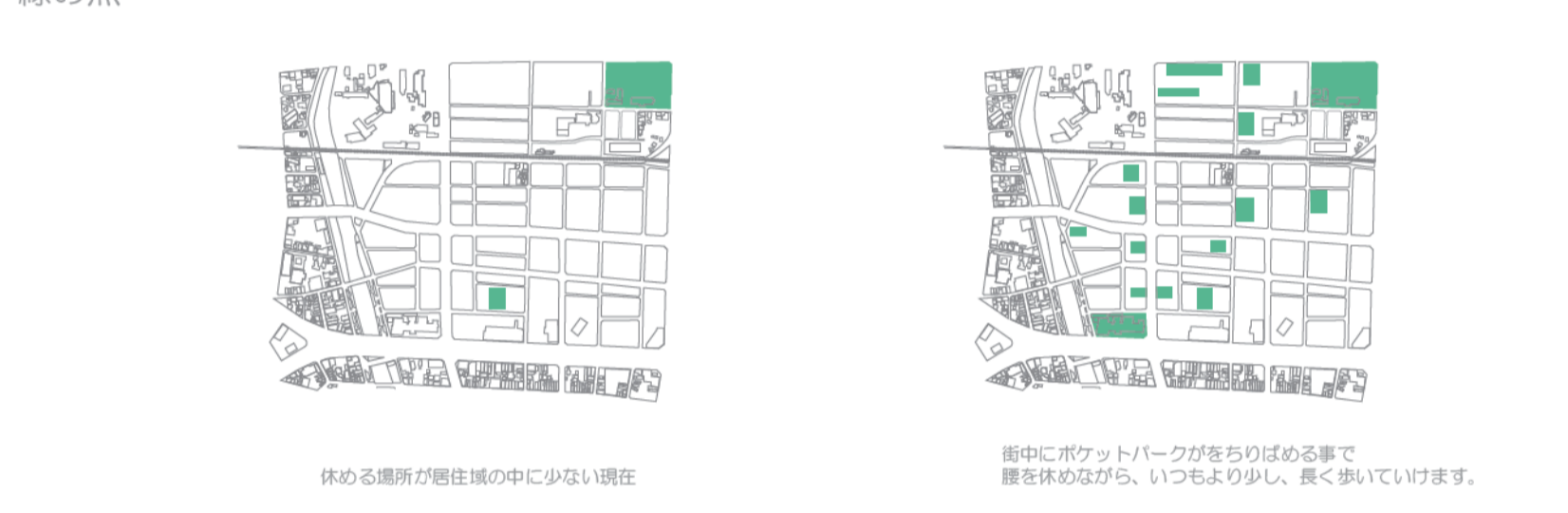
道によって途切れてしまっている街区との関係性、
街区に芝生を引き、木々をちりばめていく。
木によって連続性を持った街区は一つの庭のようなになる。

緑の線



車道で途切れてしまった商店街や居住域、
街路樹を並べることで商店街も連続したイメージを持ちます
アーケードのない商店街でも日差しを避けることが出来ます

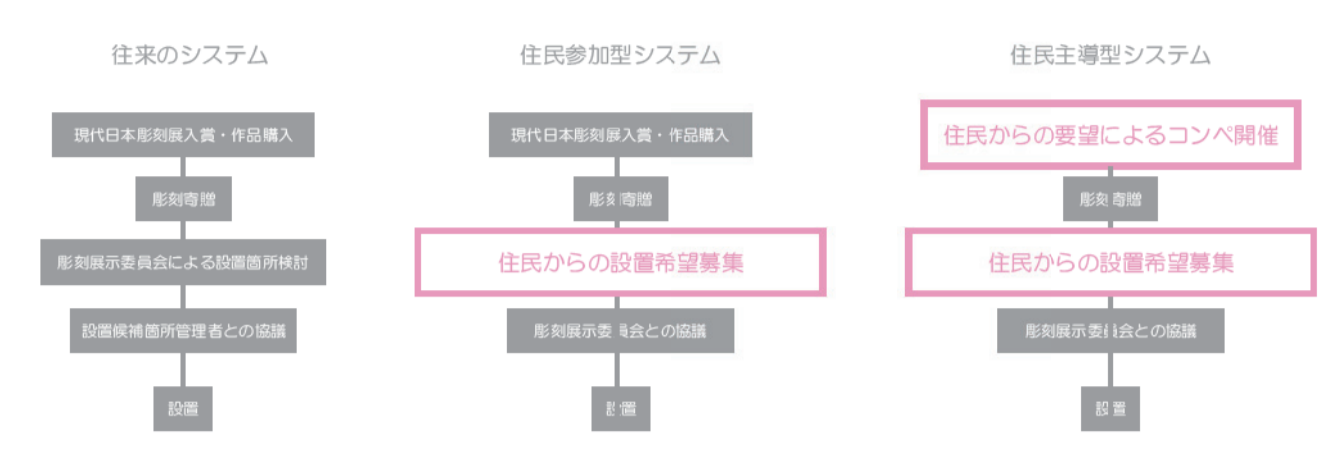
緑の点



休める場所が居住域の中に少ない現在、
街中にポケットパークをちりばめるまで
緑を休めるなら、いつもより少し、長く歩いています。

3-2 住民が参加する彫刻事業

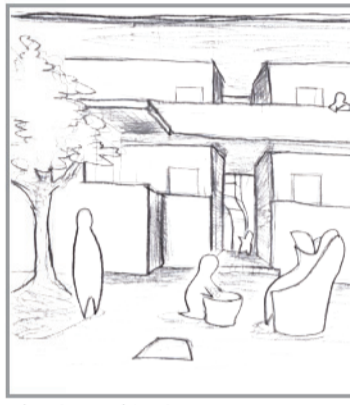
地域住民が積極的に介入する仕組みを提案することで、単なるアートイベントから、宇部らしさあふれるものへと変えていく。



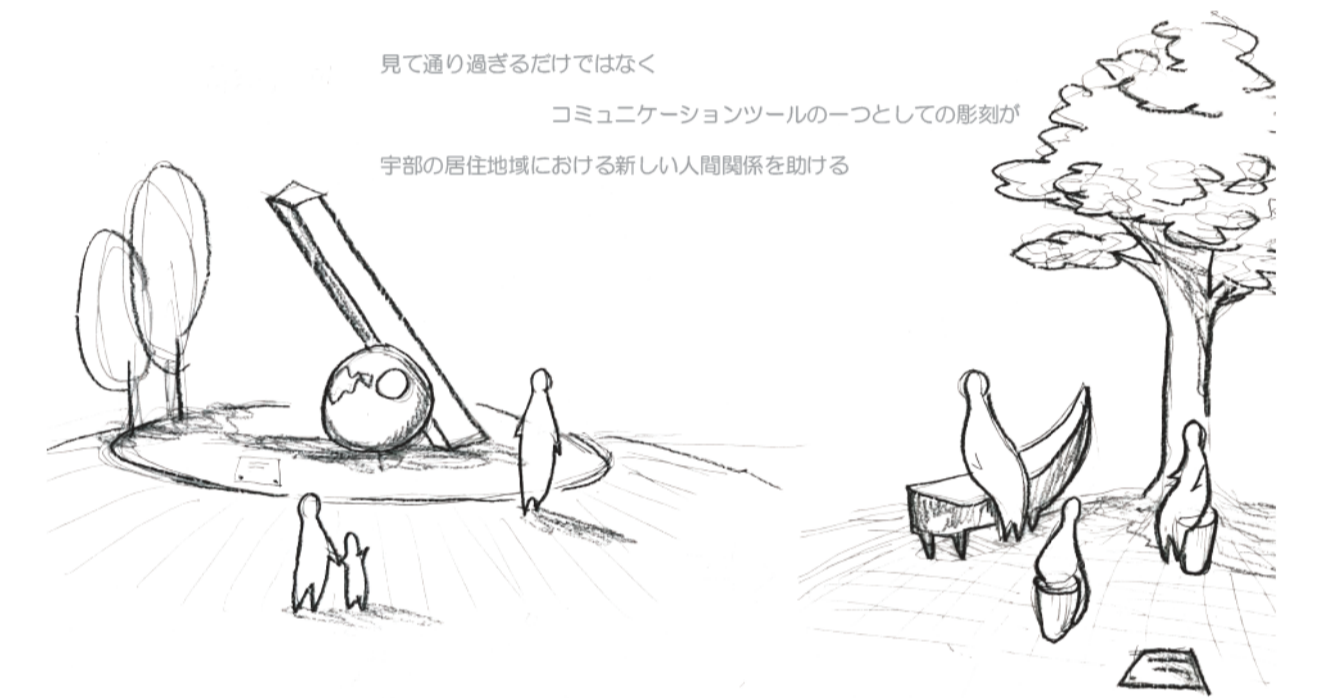
住宅街に置かれる彫刻は住民の要望によって住民の生活に密着したものになる。

それは街中に置かれている鑑賞されるがために存在するものではなく家具として座ったりおもちゃとして触ったり遊んだり.....

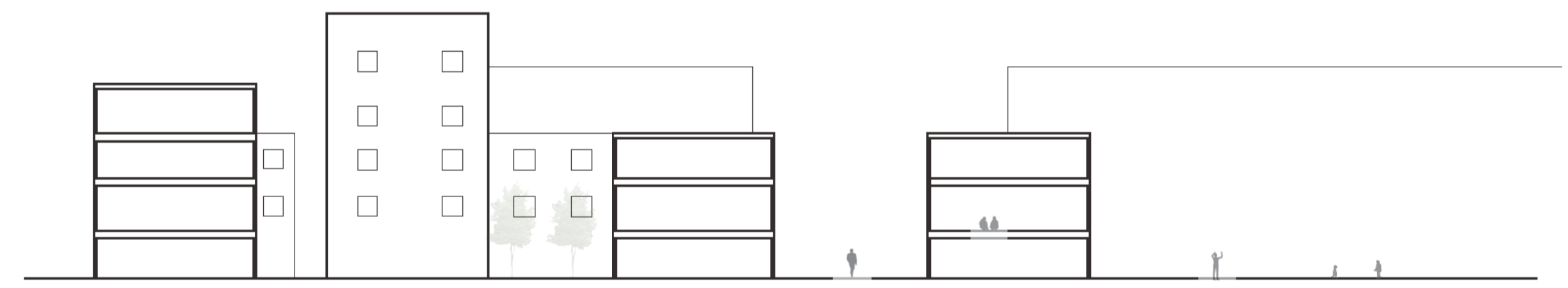
住宅地には住宅地の彫刻のありかたがあるということを住民自身が積極的に考え、提案するシステムを構築します。



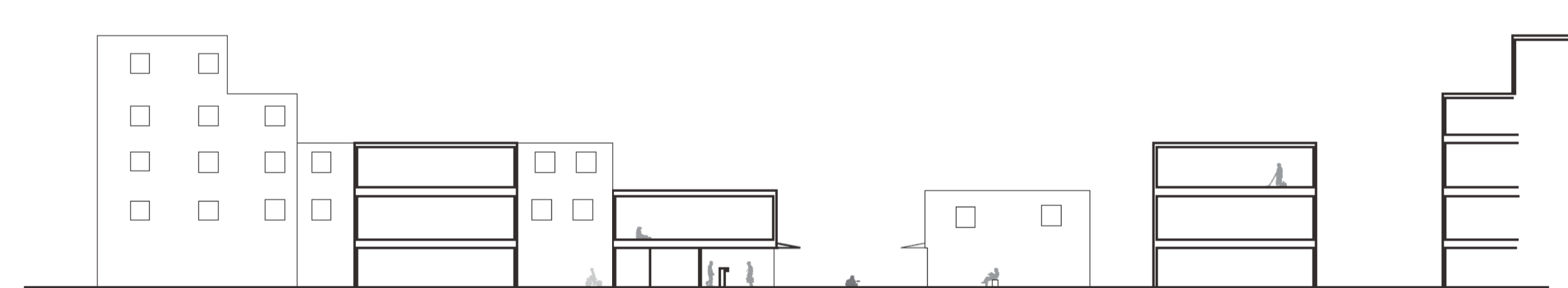
座ったり・触ったり



見て通り過ぎるだけではなく
コミュニケーションツールの一つとしての彫刻が
宇部の居住地域における新しい人間関係を助ける



通りの性格に合わせて、建物の高さを算定しましたが、宇部に残る広い空を守るため、最高で5層までに留めることにしました。



日本建築学会シャレットワークショップ2008in山口県宇部市
市街地内集合住宅街区の提案

- D班
- 山口大学 下迫 奈々恵
 - 関西大学 松宮 和人
 - 日本大学 植村 嘉仁
 - 明治大学 西条 公晴
 - 神奈川大学 高橋 永